

森の風の記憶

Presented by 諸塚村観光協会「まちむら応縁倶楽部」

諸塚の四季 Vol.1 若者、夢を語る！

通刊第29号

平成20年1月31日発行

目次:

やま学校日記	2
諸塚を食べる	4
NEWS	5
イベント案内	6

この通信誌は、ご希望の方はメールでもお届けできます。下記にご連絡ください。

お正月に第62回諸塚村成人式がありました。諸塚村で成人式が始まったのが昭和22年4月なのですが、ちなみに国が24年1月からだそうなので、その魁として、自称「成人式の発祥の地」となっています。

記録を調べると、当時は今のようなイベントでなく、男子20歳、女子18歳の社会教育講座として始まり、年間10日間の合宿形式でした。講師を招いて昼夜の勉強会を行い、その終了の証として成人証書を授与したようです。資金は要職者のカンパだったそうで、車もなく道路も整備されていない当時の交通事情や戦後すぐの混乱期を考えると関係者の大変な尽力で行われたことが想像されます。

半世紀を過ぎた今年は39名の成人式です。一人一人賞状を授与するのはもちろん、中学生の頃撮影した「5年後の自分たちへ」というビデオ放映も、近況報告も全員。皆それぞれが、ふるさとへの思いや自分の夢を語ります。中学時代の恩師も駆けつけ「君たちが主役のすばらしい成人式が出来て羨ましい」とコメントしていました。

一人一人の今の事情や目指す夢や目標は違っていても、その思いのスタートライン＝発祥の聖地もまた諸塚です。中学生の頃の君たちが語っていた5年後の夢を、また5年後、10年後にまた語りあい、その後の近況報告ができるような場を残したい。もちろん「諸塚村」という名のつく場を…。そんな思いを強く感じさせる若者達でした。(矢)

1月の出来事

- 1月3日 第62回諸塚村成人式
- 1月4日 観光協会仕事始式
- 1月6日 諸塚村消防団出初式
- 1月7日 「海幸・山幸」初商
- 1月26～27日 第79回エコツアー「諸塚でやま学校しよう！」
- 第53回諸塚村木材山地ツアー 諸塚夜神楽「戸下神楽」
- 2月2～3日 諸塚夜神楽「南川神楽」



宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068
しいたけの館21内諸塚村観光協会
0982-65-0178
Fax 0982-65-0189

HP <http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp>
e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

やま学校日記

エコツアー第79回「諸塚でやま学校しよう！」
平成20年1月26日(土)～27日(日)

今回は、まず炭焼き。塚原の甲斐耕平さん宅の炭窯で「やま学校しよう！」が始まります。窯に乾いた孟宗竹を半分に割ったものを隙間なく詰めます。伐ってしばらく寝かせておいた竹が炭焼きに適しているようです。窯に蓋をして焚き口から火をつけ、うちわで扇いで火を送りますが、窯の竹に火がつくまでかなり時間がかかります。火が着いたら、小さな焚き口を残して窯の隙間に土を詰めます。これは、熱が逃げたり、余分な空気が入らないようにするためです。火入れからおよそ12時間で出来上がりますが、それまでに微妙な焚き口の調整が必要のようです。焼き上がりは夜中になりますが、煙突から出る煙の色が透き通ってくるのが目安です。焚き口と煙突を完全にふさぎ、空気を遮断するそうです。

今日は火をつけて炭焼きは終了。森の国しいたけ団地に移動し、しいたけ狩りをしました。しいたけハウスは、発生に適した温度に暖房され、かなり暖かです。甲斐吉昭さんのお世話で、袋に入るだけのしいたけを採りました。袋は、いつもより大きくしてもらったようで、やま学校生は袋一杯のしいたけに大満足の皆さんでした。

夕方、宿泊先の「へいだの里」に入りました。男性陣が囲炉裏に火を焚き、早速しいたけを串に刺して焼きはじめました。串作りのナイフは、ちゃんと持参していたようです。しばらくあとに囲炉裏を覗くと、今度はぼっぼ酒用の青竹が座っていたのには驚きでした。素材は、周りにいっぱいありますので、あとは皆さんの知恵で何でも出来る「やま学校」です！

総勢20人前の猪鍋づくりですが、参加者のうち半分以上が女性で、ベテラン主婦ばかり。私が手も口も出すところはありません。大きな鍋二つに、猪肉、ゴボウの順で入れて長く沸騰させます。最後に材料を入れて味付けですが、鍋なら味噌と言う受講生、しょうゆも食べてみたいと言う受講生もいます。ここで満を持して、常連受講生で料理長を自負するSさんが登場。二つめの鍋はせっかくだからと急遽しょうゆ仕立てに変更です。サイドメニューに、諸塚の冬の野菜サラダ、鹿肉の竜田揚げ、炭焼き世話人の耕平さんの差し入れも加わり、やま学校の新年会の始まりです。

おながが満たされて恒例の自己紹介。今回の参加者のほとんどは初めての方で、団塊の世代のご夫婦が数組参加されていましたが、「これからも参加します」と嬉しい挨拶もありました。どの受講生も話が上手で、楽しいひとときを過ごしました。

素材は周りに一杯！
それを活かすのは知恵です！



夜は、神楽鑑賞です。神楽のある戸下地区に着くと、すぐに脇宿と呼ばれる接待宿に入りました。地元の方や別のお客さん方と焼酎を飲みながら話が弾みました。太鼓の音や笛の音色、真剣に神楽を舞う舞い手、初めて神楽を見る受講生も大満足。実は宿から一步も動かなかった人もいたとか・・・。懐かしい方との再会場面もあり、充実した神楽鑑賞でした。集合時間も厳守され、時間どおりにへいだの里に戻ることができました。



翌日、朝はゆっくり目のスタート。朝食を済ませ、昼食用のおにぎりの準備をします。朝食では、メニューになかった白菜の即席漬けが出来ていました。さすがお母さん方ですね。一方、男性陣は庭のシュロの葉で、今にも飛びそうなバツタ細工を作っていました。へいだの里玄関前で記念撮影を行い出発です。

朝一番は、樹齢数百年という塚原神社の巨木の森を見学し、癒しの森を体感しました。

いよいよ炭の窯出しですが、昨夜は夜中の2時過ぎにやっと焼き上がり、耕平さんが窯の蓋を閉めたそうです。まず鉄板の蓋を取り詰めていた土を取り出します。窯の蓋を開けると受講生から歓声が上がりました。まだ温かくて竹の形がきれいに残った竹炭が出来上がっていました。備長炭とまではいきませんが、炭と炭が当たる音は心地よく聞こえました。子ども達も窯出し作業を手伝います。



昼食は、竹炭でバーベキューです。しいたけ、差し入れの魚の干物、尾頭付きの塩サバ、豚肉ブロックと、盛りだくさん。一番豪勢な食事となりました。最後にみんなで焼いた竹炭をいただきます。インテリアや除湿材など、いろいろなことに使えるのが楽しみです。皆さん、また会いましょう。（聖）



諸塚を食べる！(29) のびる

「1月いつとき、2月にげつき、3月さらさら」春遠からじ。祖母がよく口にしていた言葉です。この時期になると毎年思い出します。1月から3月は本当に早いです。うまいこと言うものですね。

さて、諸塚村戸下地区と南川地区では1月の終わりから2月の初めにかけて夜神楽が奉納されます。夜を徹して舞われる神楽は勇壮で観客を魅了します。神楽は男性のみが舞うことができます。小さい頃は神楽が舞いたいなあ...と思ったものでした。



神楽といえば、接待がつきもの。神楽が行われる地区は、どの家も前日から料理の仕込みが始まります。その家々で料理は違いますが、蕎麦を打ち、煮しめを炊き、餅をつき、魚寿司、いなり寿司、巻き寿司に唐揚げ等々。たくさんの料理を作りもてなしの準備です。もちろん、その家の者だけではとうてい追いつきません。親戚の人や友達がこれまた手作りの料理持参で加勢に来てくれるのです。田舎ならではの光景です。その持参料理に『のびる』が登場することもある。そう、前置きが長くなりましたが、今回の主役はこれです。

『のびる』はユリ科で属名はネギ属の多年草。名前の由来は、「にんにく」を古名で蒜(ひる)といい、野に生える蒜からきたようです。全国どこでも自生しており、日本では万葉の昔から春の幸として親しまれてきました。

さてさて、ツーンとする香りとちょっとヌルツとした食感の『のびる』の食べ方は？球根の部分は味噌をつけて生で酒の肴に。天ぷらも美味。茎の部分はニラやネギのように食しても。小学生の頃、教室には暖をとるために囲炉裏がおいっていました。自然観察？と校外を散策してのびるをとってきては炭で焼いて食べていました。甘くて美味しかった記憶が。貴重な？体験でした。

神楽の話に戻ります。2月といえばまだまだ寒い時期なのに・・・かえりと和えて持ってきてくれた『のびる』は美味しかったなあ！（聖）

マメ知識 抜群の薬草作用！

「のびる」は民間薬として用いられています。良く乾燥させたものを煎じて飲むと、血を補い、よく眠れると言われていています。その他にも、胃腸を丈夫にして体を温める効果があるとか。また制菌作用を持つタンニンに似た含硫化合物が含まれているので、毒虫に刺されたときにはすりつぶしてその汁を塗るとテキメンだとか！本当に驚きですね。

トピックス：世界森林認証祭り～森の恵みの感謝祭～

ほんものを食べるなら山へ出かけよう！
家をつくるなら森へ行こう！

当日の産直住宅応募者10名様に
スギの大黒柱プレゼント！

平成20年3月16日(日) 10:00～14:00
会場 宮崎県諸塚村 耳川広域森林組合諸塚木材加工センター

環境破壊につながる地球温暖化が、遠い未来や遠い国のことではない深刻な問題となって、身近なことから始めるエコライフが叫ばれています。注目されるのは、環境を守る森からつくられる森林認証製品です。紙、木材、しいたけ...さまざまですが、その選択は、日常生活の質を高めながらエコライフへ向かう近道です。

諸塚村は、環境にやさしい森づくりが認められ、世界的な森林認証FSCを取得しています。今回その森の恵みを皆さんに広く提供しようと、世界森林認証祭りを企画しました。

世界森林認証祭りで、環境にやさしい森づくりを身近に感じ、楽しい、美味しい、豊かな森を見つめてみませんか！

<木の家づくりなんでも相談会>
FSC森林認証クラフト展示即売
FSC森林認証パネル展
ハーフビルドの家づくり体験
自然乾燥木材生産現場見学
自然派の家づくり相談会

<森の恵みのお裾分け>
旬の味覚をまるごと！山菜天ぷら
山の幸がいっぱい！特産品販売
幻の地焼酎販売(園の露、藤の露)

<森の恵みを食べる！楽しむ！>
旬の味覚！きのこ汁ふるまい
美味！**一流シェフのしいたけ料理教室**
(協力：シェラトン・グランデ・オーシャン・リゾート)
堪能！イノシシ料理
楽しい！**しいたけ駒打ち体験**
原木しいたけ採取体験
FSC木工コンテスト表彰
森のクラフト体験教室
九州電力「ふるさとの森づくり体験ツアー」



イベント情報

諸塚の祭り(29)

第23回『日本一早い! 諸塚山山開き』

期 日:平成20年3月2日(日)

場 所:諸塚村大字七ツ山飯干 諸塚山

古くから神山として高千穂郷の信仰の対象となっていた諸塚山で、日本一早い!をキャッチフレーズに、恒例の「諸塚山山開き」が開催されます。イザナミ、イザナギノミコトのお墓があるといわれ、天孫降臨伝説の神山として古くから崇められた山の山開きとあって、毎年九州を中心に、遠くは本州からも多くの方々にご参加いただいています。朝日森林文化賞の受賞と日本山岳会宮崎支部「みやざき百山」選定記念として始められたものです。山は登山道が整備されており、登山初心者の方でも気軽に登ることが出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

主 催 諸塚村観光協会、諸塚村

共 催 朝日新聞社・諸塚村教育委員会・諸塚村商工会

日 程 9:00 ~ 受付開始

9:45 ~ 神事・桂神楽奉納

10:00 ~ 式典

10:30 ~ ウッドカット・登山開始

山頂では朝日新聞社ヘリの記念撮影

12:15 ~ 下山後交流会

内 容 先着1000名様に記念ペナント進呈
甘酒の無料配布、特産品販売も行います
問合先 諸塚村観光協会

0982-65-0178

【2月の予定】

2月6日ぜんぜほっほ

2月9日 諸塚神楽

(恵後の崎神楽)

2月23日 諸塚村剣道祭

2月24日 諸塚村産直住宅
延岡市U邸見学会

2月24日 釜の前後王様祭り

2月26日 村おこし講演会

2月29日 九州森林フォーラム

3月2日

日本一早い! 諸塚山山開き

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068
しいたけの館21内諸塚村観光協会
0982-65-0178
Fax0982-65-0189
e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp



樹氷で輝く
諸塚山の山頂

編集後記

今年度最後のやま学校しようには17人の参加でした。諸塚村のALTキャラも参加し、たどたどしい日本語と英語のやりとりがほのぼのとしていました。今回は「団塊の世代」の方が多く参加いただきました。アンケートの『是非参加する』にたくさんの が着いていることに一人うれしくなった私でした。来年度の計画の時期に入りました。皆さんの貴重なご意見を活かしながら楽しむやま学校にしますのでどうぞよろしくお願ひします。(聖) 先日、諸塚山山開きの準備で諸塚山に登りました。数日前からの寒波で、登れるか心配しましたが、昼前には天候が回復し、無事山頂まで到達。幸運にも標高1300mの天然ブナ林が美しい樹氷に包まれていました。青空と日の光で白く輝く氷の森のアーチをくぐりながら山の醍醐味を満喫!(矢)



Presented by 諸塚村観光協会
「まちむら応縁倶楽部」